



たいものだともいいました。
「いいや、そのままにしといたほうがいいよ、りっぱなかさりになるんだから。」
と、ほかの少年がこたえましました。
そこで、ひなぎくはそのまま、しば土といっしょに、ひばりの籠のなかへ入れられましたけれど、行ってみると、ひばりは、あわれにも自由をうばわれているのを、深くふかくかなしみながら、つばさを、籠の金網につよくうちつけ、うちつけしているのでありました。

小さなひなぎくは、これを見て、ひばりの身のうえを気のどくに思いました。そして、なぐさめのことばを、ここからあたえてやりたいと思いましたが、花の身のかなしさに、ひとことも、ことばを出すことはできませんでした。

こうして、その朝のあいだはすぎました。
ところが、とらわれの身となった、あわれなひばりは、かなしそうなこえをあげて、こう鳴きさけぶのでした。

「ここには、ひとしずくの水もない。みんな外へ出ていってしまつて、わたしに水を飲ましてくれることなんか、すっかりわすれているんだ。のどがかわいて焼けつくようだ。ああ、きつと、もう死ぬのだ！ ああ、あなたかなお日さまにも、うつくしみどりの草原にも、もういよいよこれでお別れしなければならぬのかなあ！」

やがてゆうがたとなりました。けれど、このあわれな小鳥に

水を持ってきてくれるものは、ひとりもありませんでした。ひばりは、その小さな頭をば、ひなぎくの方へ、しずかにかたむけていました。小鳥の胸は、ひもじさと、ころほそさで、破れるばかりでありました。

このありさまを見て、ひなぎくも、前の晩のように、はなびらをとじて、ねむることはできませんでした。ところがかなしくなり、胸がむかむかとしてきて、とうとうしば土の上へ、ちからなくうちおれてしまいました。

あくる朝、子供たちがひばりを見にきたときには、あわれな小鳥は、もうつめたくなって死んでおりました。

これを見た、ふたりの少年は、おもわずこえをたてて泣きました。それからふたりは、小鳥のために、かわいなお墓を掘りました。そして、そのまわりを花でうつくしくかざってやりました。

みなさん、なんとあわれな小鳥ではありませんか！ 生きていて、歌をうたうことのできるあいだは、すっかりひとに忘れられていて、籠にとじこめられたまま、ふ自由をしなければならなかったのです。が、こうして今、死んでしまえば、このようにかざられたり、なみだをながされたりするではありませんか。

ところが、このひばりの身のうえを、だれよりもいちばんよく案じて、いろいろになぐさめてやった、あの小さなひなぎくのことを、ここらにとめて、しんばいしてやろうとするものは、ただのひとりさえ、この世にありませんでした。



目は見えずとも
愛の奉仕を!!

富山縣立盲学校生の入團

北陸^{（北陸）}としてはめずらしいお天気つづきの十二月一日、富山縣立盲学校の生徒は、小学部、中学部の全員四十七名が、そろって青少年赤十字に入団しました。

「目が見えないから、何の役にもたないというのはウソだ。ぼくたちがそのしょうこをみせてやる!!」

というその意気こそ、赤十字の奉仕の精神にもえる熱い心ではありませんか!?

そうです! 赤十字の熱い心とは、あり余っているものを投げあたえるめぐみとはちがいます。目が見えない人は見えないなりに、耳のきこえない人はきこえないなりに、お金の無い人も、ある人も、忙しい人も、ひまな人も、みなそれぞれに生きているかぎり、自分を生かしてくれる世の中のために何かつくせないはずはありません。

今に大きくなったら! 今にお金持になったら! ではないのです。今なのです!! 今、あなたの出来ることなのです。それが青少年赤十字の生まれた精神でもあるわけです。

この意味で、富山の盲学校の入団は、私たちにとっても、どんなに、はげましかわかりません。

入団式の後、同校中学部一年の越後徳久君が、点字で書いた決心を、校長の佐々木友三先生が次のようにほんやくしてくださいました。

「私たちは赤十字に入団して、急に世界が廣くなったような気がする。その意味で、十二月一日は私たちの永久に記念さるべき佳き日である。

私たちの生きかたについてはクちかいの言葉によくあらわされているが、それを実行するにはまずじぶんのまわりから

始め、だんだん手をひろめてゆくようにしたいと考え、さしあたり、次のことを私たちの団活動にきめた。

一、校庭をきれいにし、花だんをつくること。花がさいてもじぶんたちには見えないが、そこをとる人の目と心をたのしませることは、じぶんたちの心も明るくすることだ。

二、学校のまわりの道ぶしんをすること。

三、赤十字病院にいつて、今学校でなっている鍼灸やマッサージの奉仕をすること。これは人にこの技術の治療効果を知らせるばかりでなく、じぶんたちのうでをみがくことになる。

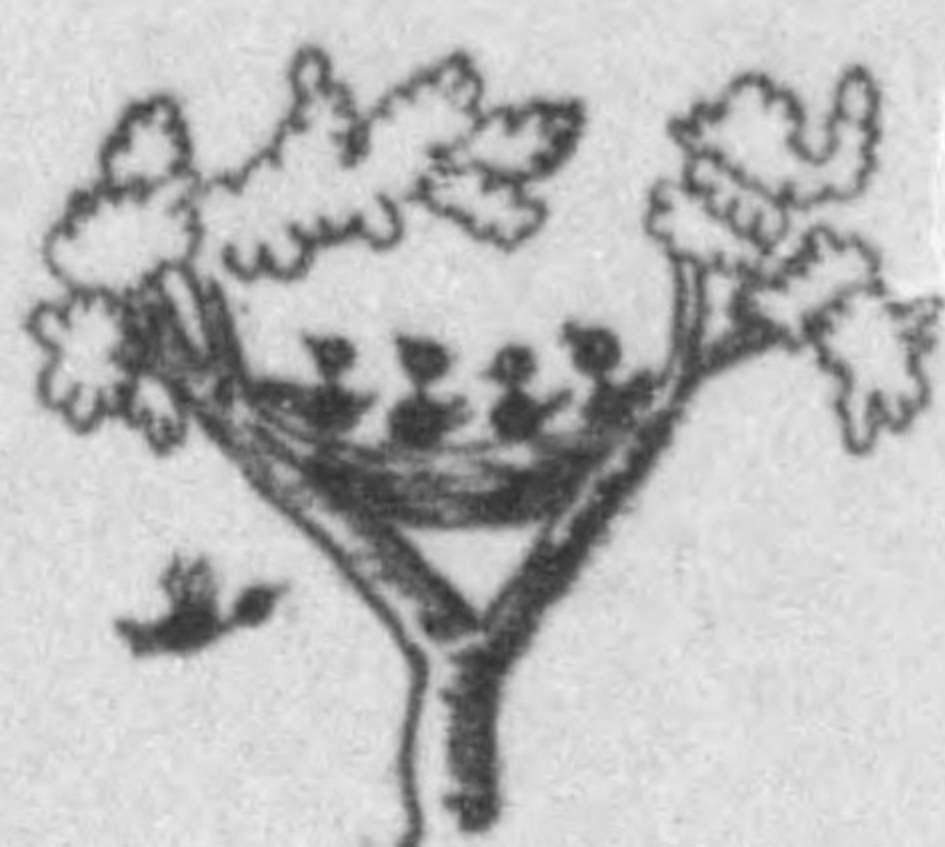
四、よその学校の青少年赤十字団と学芸の交換をすること。これによって学術の進歩をはかる。

五、失明防止の運動を行うこと。私たちのこの精神的苦痛を他人に経験させてはならない。

六、外国の盲人の生活や勉強ぶりを知ること。
七、わが国の盲人の生活や、学校の状況を外国に知らせること。
以上の方針で赤十字の奉仕の精神を実践していく覚悟である。」

この登録式には、さきごろ結団した同市総曲輪校青少年赤十字団員代表二十五名が出席して、全員そろって「空は世界へ」を合唱するうちに、両校の団議長が固く握手した光景は、出席者一同の心をうつものがありませんでした。

我等は一つ！
赤十字の旗のもとに！！
愛の奉仕を!!!



アメリカン・スクールの登録式

東 京・代 々 木
ワ シ ン ト ン ・ ハ イ ツ

十一月十八日、代々木のアメリカン・スクールで、青少年赤十字の入団式をするからお招きを受けました。校長先生は、ミス・ルース・ハンミル。この方は私たちの最初のトレイニング・センターにいらしてくださいました。すこしも先生臭くなく、いつも生き生きとしたセンスにあふれ、みんなを深く印象づけた方でした。おもしろい、思いきったスタイルのお洋服に、とくちょうのある髪かたち、そしてその上にはいつも何かお花をつんでさしていらっしやいました。

その年の秋、ハンミル校長の代々木スクールでは全校こぞつてJRCに入団したのでした。そして一年間、JRCのよいメンバーだったこの学校では、今年度も入団しようというのです。
雨の多いこの秋には珍しい秋晴れのこの日、お約束の十二時十五分前にうかがうと、学校の中のキャフテリア(食堂の一種)で、家からお弁当を持って来たものはお弁当を、持って来ない者はそこで料理される温いごちそうを、セルフ・サービスでた

べているところに案内されました。六つ位の仕切りのある大きなブレイトを入口で一枚づつ手にとり、次から次と歩いていきながら一と品づつおせてもらうのですが、仲々のごちそうです。先ず最初にのせてくれたのは苺のバター煮。それからポーク・チャップをゴソツと二た切れも……。季節には珍しい胡瓜が食堂中に香りをたてています。バターとジャムの厚切りサンドイッチ。それからアツとうれいのは、アイスクリームをのせてくれたこと。最後には熱い野菜スープの入った大きなコップ。そのコップの大きいこと大きいこと！ 普通の二倍は充分あります。その他飲みものとしてはチョコレート・モルテッポ・ミルク、ブレイン・ミルクが、どれもその大コップでサーブされます。大人は、その他に、コーヒーでも紅茶でもいただくのです。見ただけで、お腹がガブガブしてしまいそうでした。でも、ハンミル校長は、あれこれと、四杯ものんでしまわれたのはびっくりしました。

子供たちのおとなしいこと！ 一寸もガヤガヤしないのです。校庭では、レスリングのまねをしたり、とっくんだり、とても元気な生徒たちが、一旦校舎に入ると、歩くのも足おとをしないで静かにしようと努力しているようすには心うたれました。これも公民教育の一つであり、アメリカ式しつけの一つでしょう。

一時に鐘がなると、全校生徒六百三十名は校庭に出て、学級別に半月形にならびました。校舎よりテーブルが一つ。その上には蓄音器と拡声機が置いてあります。そのテーブルのそば近くマイクロホンと、旗立てがあつて、赤十字旗がはためいています。それからすこしはなれた小テーブルの上には、周囲を

白い紙ではった赤十字のマークも鮮かな箱が二つ。そこからちょうど真向いにあたるずつとむこうの校庭のはずれには、米国旗が空高くひるがえっています。



まず、この学校の生徒会々長のキャロルという女生徒の司会で、みんな国旗の方に向きなおり、「My Country, 'tis of thee」歌と、「America the Beautiful」とを歌いました。それからキャロルの御挨拶です。

「みなさん、私たちはアメリカ国民である以上、赤十字がみんなの幸福のために、どんなだいじなおしごとをしているか、もうよくごぞんじのことと思います。私たちは去年、青少年赤十字の団員になって、いろいろ奉仕することが出来てうれしゅうございました。今年もぜんぶの生徒が入団して、世の中が私たちの力でも、ほしがっているところで、奉仕したいと思えます。そして世界の人手をつなぎ、平和のためにつくしましょう。

今日も、アメリカ赤十字、日本の青少年赤十字からお客様をおむかえして、登録式ができるのは大へんうれしゅうございます。

ここに今年の青少年団議長、チャールズを御紹介します。「そこで、チャールズ少年がマイクの前にすすみました。一番上級生の六年生としては、小さな可愛らしい少年です。ちよつとはにかみながら「今年もしぶんたちより不幸な人たちのため



に出来ることをしまししょう」という意味の短いお話をしてから、みんなで「ちかい」を斉唱しました。チャールスがマイクを使っ
て一節づつ区切っている後を、みんながつけて行くのです。
又、キャロルが代ってマイクの前に立ち、
「これから登録費と、事業資金をおさめます。一年のAクラス
から二列になって、この箱のところにおすすみください」
キャロルは声も、いいかたも、とてもハッキリしています。
拡声機が、マーチを校庭にひびかせると、順じょよく、進ん
できます。ビッグ・テイル（豚のしっぽ）——三つ組のお下げの
こと）の女の子、まき毛の子、おかっぱの子、男の子も制服で
はないので、色とりどりにぎやかな色彩です。お金も、アメ
リカのドル、日本の円、紙幣、貨幣とさまざまで、額も決って
いないのがおもしろいと思えました。人がたくさん入れるから
じぶんもそうしないとぐあいが悪いとか、人が少いから、じぶ
んもそれ位でいいとか、人のことでじぶんをきめるような風が
すこしありません。じぶんはじぶんできる範囲でやればそ
れでいい、という独立自主の精神がこういふところにもうかが
われます。中には両手にお金を握って来た小さい男の子が箱の
前まで進んできてから
まだ考えている風で、
まず片手を入れ、それ
からまた考え、ぐずぐ
ずもしていられなくな
ってからもう片方の手
を入れたのは、これま
た自然でほほえましい

風景でした。
アメリカ赤十字からいらつしゃったミス・スノーと日本赤十
字からお招かれたミス・橋本がそばからバッジを渡しま
す。バッジを渡すものも受けるものもクサンキウ！ サンキ
ユウ！！
こうして一クラスづつ二列になって次から次と順序よく、一
年から六年まで六百三十名の生徒がけん金を終え、最後に校歌
を唱って、又クラス順に校舎の中に午後の授業の爲に消えてゆ
くまで、一時間とはかからない位でした。
校長先生の長々としたお説教もない、來賓のむずかしい演説
もない、一人の大人も出て來ない、簡素な、すっきりした、子
供たちの自主的な登録式でした。とても新鮮な思いに胸が洗わ
れて、子供たちへの期待で、心もあかるくなるのでした。
去年、このJRC団員は、ジェネラル・ホスピタルの入院
かんじゃさん方のために、いろいろな祭日用のカードやかざり
物をこしらえてあげたり、ある孤兒院に百ドル寄付したりした
そうです。今年には日本のJRC団員に対しても何か働きかける
ようになればいいと、これはハンミル校長のねがいでした。
みなさんの方からも、アルバムの交換なんか如何ですか？

登録の更新

JRCに入団していた方は毎年、登録の更新をすることになって
います。
新学期になって、クラスが決ったら、各クラスで団費を自分たち
の手で作って、登録の更新をして下さい。

かわいらしいけど にくらしい

ネズミさん



千葉一之

家のすみっこを、ちょろちょろと出たり、ひっこんだりするネズミさんは、なかなかかわいらしい感じのするもんです。

あのお家の中にいるネズミはエジプトネズミと違って、ずつと昔、エジプトに住んでいたのが、人の移住や船について、まずイタリヤ、イスパニアに行き、それからイギリス、フランス、ギリシヤに、アメリカにも移って行き、東洋、南洋と世界中にひろがっていききました。私たちの見るネズミはこの外、ドブネズミと違って、からだの少し大きいのが、シッポはみじかく耳の小さいもの、色の黒いクマネズミ、とても小さく七センチ位のハツカネズミ、畑の中にいるハタネズミ、お医者さんが実験につかっているダイクネズミ、ナンキンネズミ、などがあります。日本にはその外五十種ぐらゐり、世界中では二五〇種ぐらゐりいます。

これらのネズミは、お医者さんの実験などにはとても利益はありますが、害になる方がとても多いのは、皆さんが知っているとおり、食料品をくいあらず、建物・家具の類をかじるなど、たまったものではありません。家畜にも、人間にも悪い病気をつたえることもします。

あなたがたはネズミからうつる病気は、ベストだけだと思つていますが、どうしてどうしてそれだけではありません。ワイル氏病・鼠咬症・ツツガ虫病・発疹熱・食中毒など、たくさんのおそろしい病気をうつすんです。

まずベストからお話しますと、これはもとは人間の病気ではなく、ネズミの病気だったもので、インド、中国の南、小アジア、アフリカの一部ではいつもこの病気で人間が病気をしてこまっています。日本へは一八九九年に入つて来、約二十年間も患者が出ました。北里柴三郎博士によって発見されたベスト菌による病気で、とても死ぬ率が高く、いやな伝染病です。



ベスト菌をノミがすい

一名黒死病ともいわれます。伝染するのはネズミにおけるネズミノミが人間にうつすのです。ベストにかかっているネズミの血といっしよにベスト菌

菌がノミのお腹の中でどんどんふえ、ノミがネズミの血をすうとき、またうつすのです。そのほか、ノミのふんの中にも、たくさんノミのペスト菌があって、傷から体の中に入ってもいきま

す。人間にもこれと同じようにうつるのです。ペスト菌が私たちの体に入ると、リンパ腺はれ、四、五日あとに急にさむけがして高い熱が出ます。そしてたいへんな頭痛がし、ついには意識もなくなり、眠りつづけ、そのまま死んでしまうことさえあります。

つぎにワイル氏病はドブネズミが多くもっており、一種のスピロヘータという病原体で、ネズミの腎臓の中にすまっております。ネズミが尿をするとき、いっしょに出て、どぶ水の中に



長いこと生きておるのです。その水の中んだり、その水の中に入ったりすると、皮ふから体の中に入って来ます。四、五日すると、さむけ・高熱・頭痛・筋肉痛がして、黄疽と皮下

出血をおこし、心ぞうも弱くなり死ぬことさえあります。富山や新潟、千葉などに多いようです

それから鼠咬症ですが、ワイル氏病と同じようにスピロヘータによる病気で、ネズミの口の中にくさんいるスピロヘータが、人がネズミにかまれたとき、そのきずから体の中に入ります。かまれたきずもなおってから十日ぐらいたると、そこがむらさき色になり、さむけ・高熱がして発疹がおこりますが、たいへんは大事なことでもなく、自然にでもなおるのですが用心は必要です。

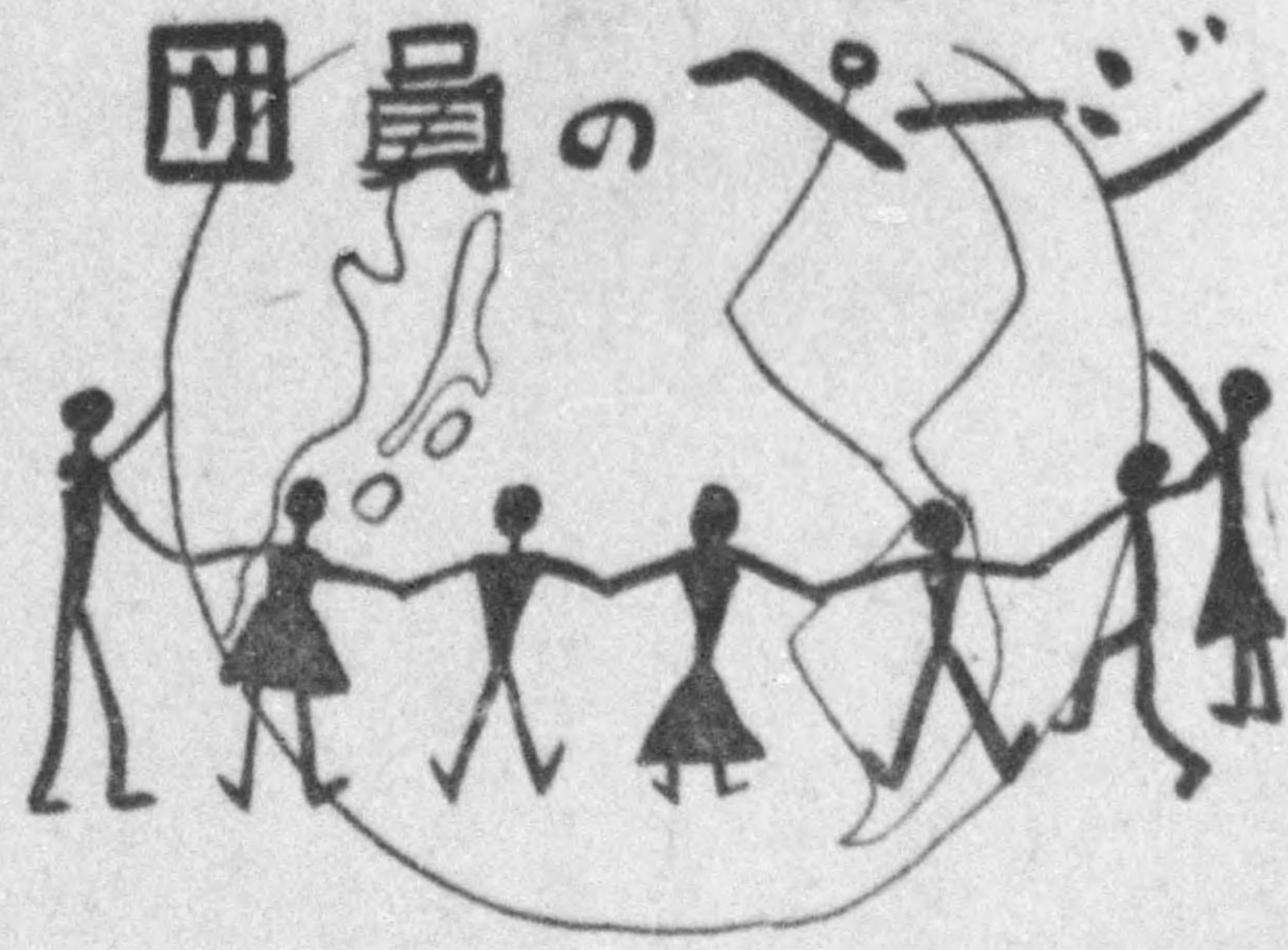


つぎはツツ身虫病ですが、日本でも古くからあったようで、むかし旅行に出て何事もなかったのをつつがな

小さいリケッチャという虫で、ハタネズミの耳についておるまっかな赤虫というダニの一種によつてうつされます。このリケッチャをもった赤虫にさされると、四、五日してから、そこが赤くなり、リンパ腺はれ、高熱が出てはしかのようなきい出ものが全身に出来、心臓が弱って死ぬことがあります。

最後に食中毒は、ネズミの腸の中にいるサルモネラというばいきんがふんや尿といっしょに多くあちらこちらに出され、私たちがあやまって食べた時に中毒をおこすのです。

こんなぐわいに、ちよろちよろしているのを見るのは、ちょっと、かわいらしいネズミも、とてもにいらしいものです。そしてそんなにふえないのなら良いが、ネズミ算というぐらゐ、次から次へとふえていくものです。ネズミは約三年ぐらゐ生き、一年に五回ぐらゐ一回に八匹ぐらゐつ子を生まみますから、殺されたり病気にならなければたいへんな数にふえるわけです。私たちはどうしてもネズミ退治はしなければなりません。直接殺すのは勿論ですが、下水、ごみだめなどを清掃して、ネズミどもに私たちの家を、町を、社会をよこどりされないようにしましう。



赤十字に入るまで

埼玉川越第一小学校
四年生 石黒忠弘

いかげんな気持ちで入っても、りっぱなお仕事は出来ません。しっかりした心がまえを作ってから入りましょう」とおっしゃった。

それからぼくたちも、いつも友だちどうしでちゅういしあって、だんだん心を合わせる事が出来るようになった。ある時先生から「大へんこのごろよくなったようですから、赤十字へ入ることについての自治会をしましょう」とお話があり、みんな手をうってよろこび、すぐはじめた。「仲よくしましょう」「よわい人を助けましょう」「進んでよいことをいたしましょう」などと、たくさんの意見が出て、つぎに入団のお金を作るために、はたらく相談をしました。一ばんよいときまっていたのは、ガラス集めのことでした。

それから二、三日お家を集めたり、近所の家をいったり、また二組の人も早く入るようにとくんだりして、集まったのを売り

に行きました。いそがしい夕方の町を大ぜいでリヤカーを引いて行くので、人々はびっくりしているようでしたが、ぼくたちはとくいでした。途中で上村君が東電へよって、古い電球をもらったり、電成社へよったりしました。電成社では、わけをいいたら「それはよい事だ。物おきのをみんな上げる」といって、三つの大きな俵にある何千という電球をみんな出してくださった。見るまにリヤカーは電球の山になった。くす屋さんにつくともう暗くなりかけていた。でも親切なおばあさんは「えらい、えらい、ご苦労さん」といってよろこんで、はかってくださった。そばにいたおじさんは「ほんとによいことだ。今はきのどくな人がたくさんいる。お金をつくったら、りっぱなお仕事をしてください」と涙ぐんで話された。ぼくは胸をはってなんだかともうれしかった。みんな口々に「足りるかしら」「先生入れる？」などと小さな声で話

教室は書取りの勉強でしーんとしている。

ふと耳に、となりの組の赤十字の歌が聞えて来た。あちこちから「空は世界へ……」と歌に合わせて声をする。ぼくもつられて歌い出しそうになりはっとした。ぼくはなんとなくさびしい気持ちでした。それはまだ、四年でぼくたちの組だけが入団していないからである。二組、一組が入団してから口々に「先生、ぼくたちも入りましょう」「私たちはいつ入るのですか」などと聞いた。でも先生はいつもそんな時「い

し合った。

すっかり暗くなり、空には星が光り出した。でもぼくたちはみんなはりきっているの、こわがる人は一人もない。すっかりはかって、三百十五円と聞いた時は、みんなとび上ってよろこんだ。親切なおばあさんにさよならをして、帰りはとても足がかる楽しい気がした。長沢君が「先生、明日浦和へ行ってね」松岡君も「バッジを取りに」と続いていた。先生も「もう、私がいなくてもきちんと出来ます」とおっしゃり、うれしそうだった。

電燈のついた冬の夜の町を、ぼくたちはとぶように家へ帰った。それからぼくたちは入団を楽しみに、毎日を明るくくらしした。毎月先生から少しづつお話を聞いた。何だかぼくは、新しく学校へ入学するような気がして、その日の早く来るのを待ちどろしく思った。ぼくたち三組だけが楽しみでなく「早く三組も入ればいいなあ」といつもはげましてくださった平野先生、高篠先生また一組、一組のお友だちにたいしても、ぼくたちは早く入って、赤十字の一員として仲よくなりたいとつくづく思った。先生も「入団すればみんなが幸福になることと、一組、

二組の先生方やお友だちにも安心していただけますね」とおっしゃった。ぼくは「ほんとうにそうだ。これからしっかりやりましよう」心にかたく約束した。それから先生と「きつとりっばな人になり早く入団します」と一人一人指切りをした。先生は涙ぐんでおられた。何だか組ぜんぶがしっかり輪をくんだよううれしかった。入団式をして胸にバッジをつけたら、きつと心を合わせりっばにお仕事をしようと、みんなで話し合った。



アルバム製作の

よろこび

静岡・藤枝高校 松浦安一郎

団を五つの分団に分け、スポーツ・文芸・芸術・社会・科学の専門を決め、自己を發揮し、それによって、健康と安全を保持増進し、博愛奉仕と国際親善をしようところみました。余分団を通じて、アルバム製作を先ずはじめました。その題を「私たちの趣味」とし、各自が自己の趣味をいかし、アルバムにのせました。これがどんなに嬉しかったか、楽しかったかは、製作しない人々には想像もつかないことでしょう。私たちの絵や習字などが、遠い国々に送られ、全然知らない他国の方に喜ばれることを思うと、私たちが国際人になったよろこびを感じさせます。



のびる木の芽

中村敬雄



ほかほかと暖かい太陽が輝きはじめる三月になると、私たちの気持ちのびのびすると同じように、野や山の木や草が急に活動しはじめます。長い冬の間、ねむっていた遠くの、近くの森や林も、一せいにねむりから目ざめて、夜となく、ひるとなく、新芽をのばすたくをはじめます。

草や木はまず第一に地の中の水分のすい上げ、それと一しょに、ごちそうをすい、たちまちの内に、葉をひろげ、花をさかせます。ちよっと木の幹などにきずをつけますと、ぼたぼたと水が落ちます。私たちがよろこんでいただけ、糖分をたくさんふくんではいる水を出す木も、いろいろあります。カエデなどそうです。ある地方では昔、雪のとけはじめた頃、バケツなどを持って、この木の水をあつめてあるき、お砂

糖を作ったという話もあります。

このようにたくさん水分といっしょに、ごちそうをとって作られる木や草の芽は、春になって、急に出来るものではありません。ちゃんと前もって用意されるのです。それも一月二月ではありません。去年の春から夏にかけて用意されているのです。おどろいたことには、もうそのころ、葉になる芽と花になる芽と枝になる芽とにわかれていたのです。まだおどろくことは、枝になる芽には次の年の芽が、とても小さく用意されていることです。

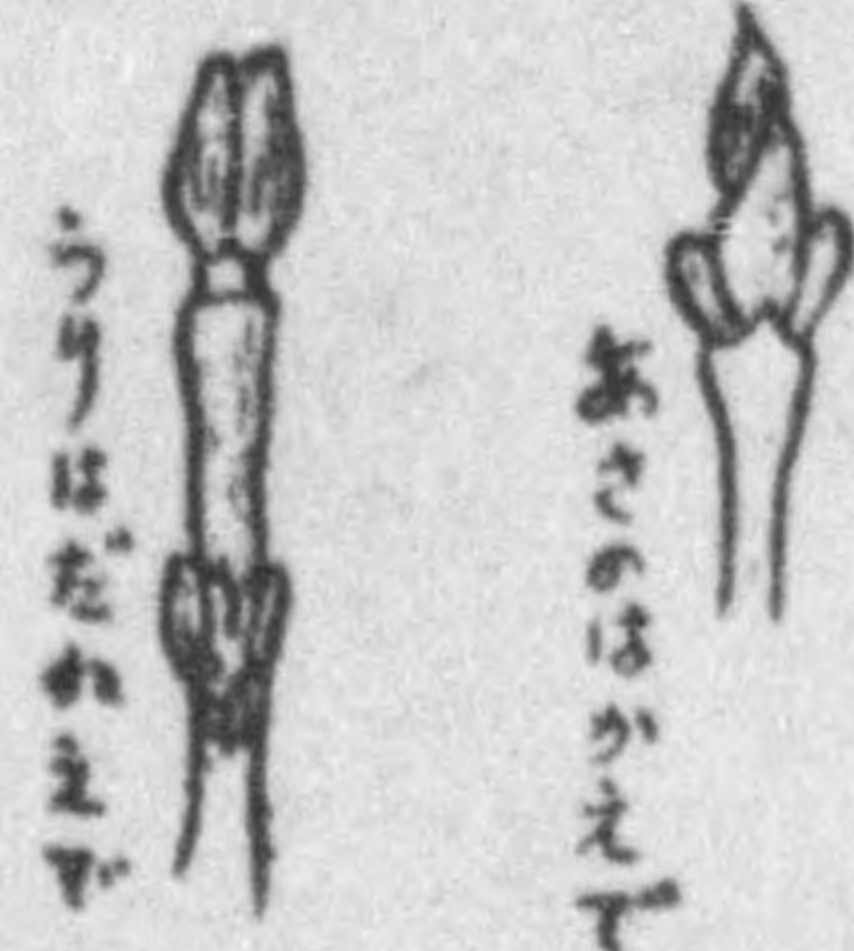
このように、きまって出る芽とちがって、たとえば、切りかぶなどから出る不定芽とよばれる芽があります。桑や桐などよくそれを人間が利用しているのです。そのもとも強いのは、挿木^{さくぼ}といって、木の枝を土にさしておけば、根

が生えて来るのです。琉球や台湾には葉を地面におけば、葉のふちからたくさん芽が出てくる、ものすごいものもあります。

芽によって、木や草は大きくなったり、ふえたりしますが、普通は種によって、ふえてゆくことは皆さんもごんじの通りです。この種はほとんどが、一年で死んでしましますが、ハスの種などは五百年も昔のものが、芽を出したという話があります。こういう長生きをする種は多くかたい皮をかぶっておりません。

種をまくのになぜ、むぎのように寒いころ種まきをするともあれば、春になってからでないとい出来ないかといえば、種の種類によって芽の出る温度がちがうからです。ムギは三、四度でも芽を出す、キウリやナスなどになると、十二度よりひくくは芽が出ないからです。

温さによって種が芽を出すと同じように、草や木の芽も温さは、もちろん必要です。春になつて芽が出るのもそのわけです。ウメやサクラが秋などに咲くのは、これらの木は冬の眠りの浅い木ですから、ちょっととしたしげきで、ねぼけるのです。このねぼけを利用して、もう春がきたといつて、花を咲かせる木があります。お正月の梅などです。このねぼけさせの方法は色々ありますが、簡単に出来るのは、温浴法といつて、二十八度位の温湯に十時間位ひたしておくのです。その外、濃硫酸に草や木の芽を、十秒ぐらいつけ、すぐ清水で洗って、温室に入れておくと、すぐ花がさきます。



あさのはかえり



やまもみじ



もくめん



さくら



あおざり



とちのき

く、木自体をやしなう澱粉とか蛋白質と脂肪を作る養分は、ほとんどこの根から吸収されます。この養分をふくんだ土は、地球上どのぐらいの厚さがあるかといいますが、思ったよりうすく、平均一米ぐらいで、多いところでも十米をこえることはありません。これだけしかない厚みのところで、大木も生長し、生命をつないでいるのです。大きな力ではありませんか。又、根ほど敏感なものはありません。随分遠くに養分のあるところや、水のあることを、まるで目があるように知るのであります。その外、毒のあるところへも決して近づきません。根はじぶん自身も大きな力で肥って行き、直径三十種ぐらいの根の肥る力は、千キロの石をもちあげるにささいわれています。岩さえ割ることもあります。こんなぐわいに、いつも目にふれない根

の力ぞえがあつてこそ、みどりの芽もあることをわすれてはなりません。

このように草や木の芽は長い用意と、温度によつて生れて来ます。私たちのお仕事もこれとちつともちがったところがないと思ひます。このごろ道ばたやお庭など、どこへ行つても芽がお月さんの光をあびて、すくすくとのびているのを見ると、とてもかわいらしく、勇ましく、清らかです。だれでもこのむじまきな清らかな気持ち、美しい心を持つておれば大変幸福です。

橋本先生がアメリカへ

三月五日の横浜港から出るプレジデント・クリーブランド号でアメリカJRCを研究するため、四箇月の予定でお出かけになります。

四、五月の二箇月はアメリカ各地の学校を訪問して、JRCがどのように学校内で運営されているかを勉強され、六月にはアメリカ赤十字全国大会に出席され、全米のJRCの活動状況を研究され、七月にはアメリカ各地で開かれる 트레이ニング・センターを訪問されることになっています。



とい合わせ

トレーニング・センターから帰って来て、私とBさんとで、一年(六学級)二年(六学級)の計十二組にJRCのお話をいたしました。いよいよ十一月二十一日結成式を行うことになりました。一、二年生は静かに話を聞いてくれ

どんどんと、全てが運んで行きました。私が女子なので、どうか自信がなかったんですけど、いざ話してみると、あんがいよく出来、私の力もまんざらじゃないと思いました。このように一、二年はよかったです。三年の男子がなかなかなのです。女子の方には入団したいという人がいるのです。それで組単位ですと、結局その人たちは入れません。私たちとして、どうにかして入れてあげたいのです。積極的なその人たちはみんな熱心な方ばかりです。その人たちをむざむざとほっとくなんて、もったいないのです。

それで、私が考えた事は、その熱心な人たちを集め、エクラスの人数にして、一分団結成したらいけないでしょうか。そうしたら、種々のこともどんどん積極的に出来るのではないのでしょうか。世界平和の爲にとさげぶ人が一人でも実際活動をするようにすべきではないでしょうか。熱心な人たちは、どうにかして入団出来ないか、どうにかしてほしいと、いつて来られるのを聞くたびに、私としては、うれしいのですが、規則をやぶってはいくのが頭の中に入っているのです。どう返事してよいやら、わかりません。私の今の答えは「先生に聞いてみます」としか答えられません。だから熱心な人を集めて、一分団作ったらいけないか、よいか、はっきりと教えてください。

私たちは女なので、入団をおすすめするのに

どうかと自信はありませんでしたが、一年と二年の合計十二組の各組で、JRCのお話をいたしました。なかなか静かに聞いてくれましたので、どんどんと話が進みました。そして十一月二十一日には、結成式を行うことになりました。私たちの力も、まんざらでない自信がつかしました。

このように一、二年はよかったです。三年生となるとなかなかなのです。女子の一部には入団してみたいという人も居りますが、クラスで入団ということには、なかなか進みません。クラス単位だと希望している人が入れません。私たちとしては、どうにかして入れてあげたいのです。積極的に入団を希望されている方は、みんな熱心な方ばかりです。それなのに、その方たちをむざむざ、ほっておくことは出来ません。私たちが考えた事は、その熱心な人たちを集めて、エクラスぐらい集めて一分団結成したらいけないでしょうか。そうしたら、色々な事もどんどん積極的に出来るのではないのでしょうか。世界平和をさげぶ人が一人でもふえ、実行運動にうつされるのです。熱心な人はどうにかして入団してくれといて来られます。でもクラス単位入団の規則があるので、どうして返事していいやらわからないのです。クラスのほかの人が賛成しないばかりに、熱心な人を殺すなんて、とても出来ません。もしいけない場合は私たちの熱意がないからでしょうかと思ひ、もう一度やってみます。

お 答 え

あなたらしいPassionateなお手紙、うれしく拜見しました。写真も余計思い出を授けて、おなつかしかったです！

あなたなら……と期待してました。私が女子なのでどうか、と自信がなかった。ナンテ、そんなことあるのですか！ 私など女子だから、かえって、話をきいてくれる経験の方が多い位ですの、男子は話すものに決っているので（日本では）聞く方で珍しくないのね。でも、とにかくあなたが私の力もまんざらじゃないという自信をえられたことは、何よりでした。自信というものは、やってみないでは決して得られぬものですからね。

さて、質問のお答、あなたの熱情あふれる訴えに、私も嬉しくて、人情からいえば、折返しすぐにも「OK」と電報を打ちたいところですが、規則は規則なので、私自身、とても悩まねばなりませんでした。

もちろん、アメリカ赤十字から来ていらっしやる顧問にもうかがってみたり、今更、何度めかの手引の読み返しもしました。それというのも規則は規則の爲にあるのではなく、皆の都合の爲に人間が作るものなものですから、よくよく考え、研究してみた上で、その方がいいと皆がより納得する方法があったら、いつでも変えたいという気持が強いからです。決して、とらわ

作品募集

Free to think!
Free to speak!
Free to write!

れない心、これもJRCの特長ですものね。
なぜクラス単位で分団を作らねばならないか
には次の理由があります。
(一)、JRCの特長は、学校の授業で習うわざ

を社会の爲に、そばから（大人になるのを待たず）役立てるチャンスにあたえる機関というのにあるのですから、学課とJRCの仕事は直結していなければならないわけなので、授業をク

みなさんから作品を!!

あなたは何を考えていますか?
何を画いていますか?
どんな詩が口から出てきますか?

自由に思い、自由に語り、自由に書ける私たちのしあわせを、あなたの機関誌「青少年赤十字」に、たくさん、たくさん、もりましよう。
あなたの作文を、童話を、論文を!
あなたの図画を、まんがを!
あなたの詩を、歌を、俳句を、童話を!
どん、どん、送ってください!!
東から……、西から……、南から……、北から……
。日本じゅうの青少年赤十字団から……。英語でも、日本語でも、かまいません。
待っている先は

東京都港区芝公園五号地
日本赤十字本社青少年課
機関誌編集係宛

ラスとして受ける以上（だから高校の場合は授業を受けるクラスを単位とし、必ずしも学級を単位とはしません）半分入ってないでは具合が悪いのです具体的に行くと、例えば、英作文の時間にあてなしに自由作文をするより、長崎のAボンブ（原爆）と世界平和——少し大きすぎる題かな！——という題でクラスが作文して、よく出来たもの、国際的友情のプラスになるものを三つ選んで、アルバムに入れ、JRCを通じてアメリカに送ろう、ジュネベに送ろうといえ、勉強の張合が違うでしょう！ところが、当選した者がJRCのメンバーだとか、ないとか、いう問題が起きたら困るじゃないの、やはりクラス全体が入っていてこそ初めて、JRCを学校生活に「E」に利用することが出来るわけです。

(二)ところが、そうになると、あなたが今当面して困っていらっしゃるような問題が起るわけですね。クラスに入りたくない人があるという場合ね、でもそういう人には二種類あると思います。

まず、JRCの本当の意味とか効果がわからない人、私が思うのに、それがわかったら、断然入るのはいやだ、ナンて人は、絶対に無いと思います。だってJRCには入ったら悪い理由ナンて一つもありませんもの、JRCの理想を否定する人ナンて、学校に来る意義、否生きていること、そのことを否定する人ではありませんか。次に、よくわからない上にプラス「意地」と

いう人です。ただ「初めいやだ」とい出した以上、意地でも、突張らねば男が（女も？）するとか、クナニ女のいうことなんか、やすやす感心したんじゃないか、あ、みっともないっていう手合ね。よく考えれば何て心の狭い、つまらない話なんでしょう！こんな人があるからこそ、余計JRCの運動は必要なのです。こういう狭い片意地が平和をはばむ心の一つではありませんか。

そこで、第一の人種に対しては、十分誠意をつくしてJRCに対するあなたの所信を説明してあげること。この欄でも、私が度々お話ししたように、私たち日本人は本当にお話することが下手です。お話というものは、ただすればいいのではない、わかるようにお話するのでなければ、する効果がありません。けれども、じぶんの胸にあるものを胸のすくまで、表現出来て、しかもわかって共鳴してもらおうというものは、決してやさしいわざでないことは確かです。ではどうしたら上手になれるでしょうか。やはり必要に迫られ苦勞して、やってみる外はありません。その必要に迫らせるもの一つが、このJRCのクラス入団制度であります。

次の第二の人種に対しても同じようなことがいえると思います。即ち、こういうつまらない片意地の人って世の中にたくさんいるものではないか。こういう人とどう打合って行くか、そして打合って行くばかりでなく、そういう人にもいつか心を開いて大きなりっぱな考えを受入れ

る幸福を知ってもらおう、というわざ、これもまた、人生を生きてゆく爲に身につけたいものの一つではないでしょうか。それも、経験です。訓練です。

以上、いずれにせよ、反対者をも説得しなければならぬという機会に於て、あなたがたはまた、色々の人生の勉強、リーダーとしての資格の練成を必要に迫られ、知らず知らずの中にしてゆくわけです。

あなたのいうことを他人、殊に反対者に聞いてもらおうと思えば、あなたは忍耐強くなければなりません。すぐ怒ったり、けんかしてしまふのは能無しの証です。あなたは知恵と愛情にみちていなければなりません。相手の立場になつてものを考える愛情の余ゆうがあつたらよい知恵もわいて来ます。即ち、あなたが人に愛され、尊敬される人間になればなるほど、人はあなたのことを聞いてくれるわけです。あなただってそうでしょうか。同じことをいわれても、好きな人からいわれたのと、嫌いな人からいわれたのとでは、随分受け入れる気持ちがちがうでしょうか。人が自分のいうことを聞いてくれない時は、聞いてくれない事をうらむ前に、聞いてもらえない自分の反省も大事ですね。こうして人を説得することの必要。民主主義は話合ひの人とりゲームである。という民主主義の実践は、ただ、じぶんが入りたいから入れるという、簡単な情熱の燃え上りを必要とする制度



○時 現 代
○所 ある中学校
○人

金村 誠治 中学生
金村の母 中学生
千 田 中学生
吉 田 中学生
黒木先生 A、B、C、D、E、F等
中 学 生

教室。大きな紙に、四、五名の生徒たちが学芸会で上演する劇の背景をポスターカラーでせつせとかいている。画面は遠い野原の景色である。

そこへ黒木先生がやってくる。

黒木「みんなまだやってるのかい？」

一同「ハイ」

黒木「し、かりたのむよ。学芸会は明後日にせまっているんだからな」

吉田「大丈夫です。それまでにはすばらしい背景をかき上げてみせますよ」

興梠忠夫作

黒木「ハハハ……大した意気ごみだな。今日はもうおそいからこれ位にしたらどうだい？」

A「そうするか？」

吉田「ウム、じゃ、今日はこれで終りにしようや」

一同、道具を片付けて退場する。

やがて千田とEがやってくる。

E「やってくるな。金村の奴ときたら、こんどの劇で王子さまの役になったのを鼻にかけて威張ってやがるよ」

千田「……」

千田、ナイフを取出して、いきなり画面を切り裂くと、走って教室を出てゆく。Eはハッとして不安そうな表情で後につづく。

一同「聞」

A、あわてて登場。

A「なんだい、こんなところにあつたのか」

A、忘れ物のカバンを取上げてゆきかけるが

フ、画面に気付いておどろく。

A「あッ！ 大変だ。みんなに知らせてやろう」

急いで退場。

一同「聞」

やがて黒木先生をはじめ、吉田やAその他がかけつけてくる。

一同、ぼうぜんとなって画面をみつめる。

黒木（しんみりと）「無茶なことをしたもんだな。あれほど君たちが一生懸命に力をあわせて作り上げていたものを切るなんて……」

吉田（涙ぐんで）「先生ッ！ 僕ッだれがしたのか分ります。主人公の王子さまに金村君がなることをいちばん反対した者のしわざに違ひありません」

A「そうだ」

B「千田君だよ、きつと」

吉田「ぼく、千田の奴、なぐってでもいいですか？ 先生！」

黒木「そうだな、人の努力の結晶を白無しにしただけだから、その犯人は君たちにならされても仕方はないだろう」

吉田「畜生ッ！ おい、みんな、ゆこう」

一同、気色ばんでゆきかける。

黒木「まち給え。君たちのくやしい気持はよくわかる。しかし、この問題は先生にまかせてくれないかね」

吉田（はやって）「でも、先生……」

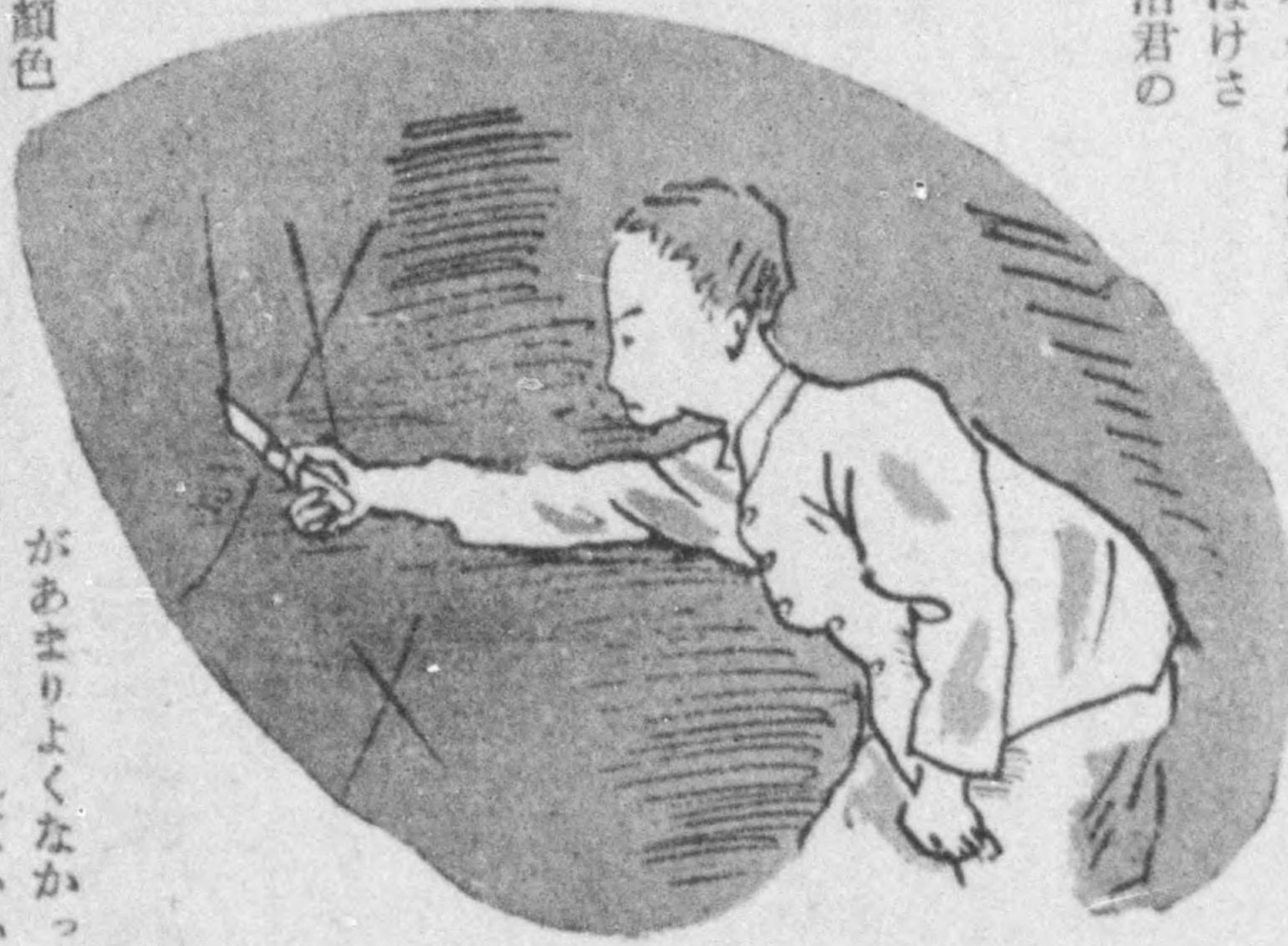
黒木「分ってる、分ってる、決して悪いようにはしないから……」

A「じゃ、先生にまかせようよ。吉田君」

吉田「……」

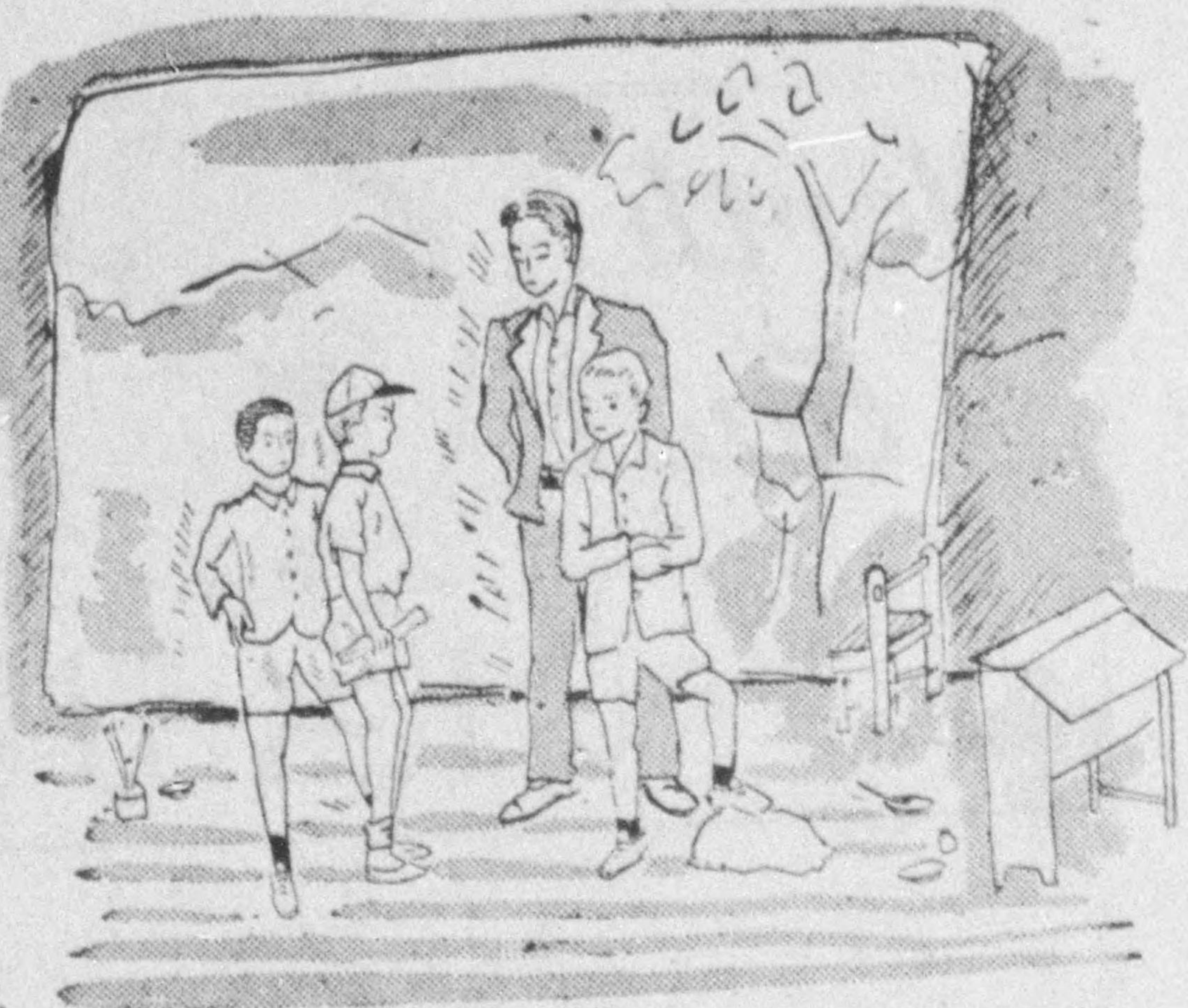
黒木「そうしてくれ給え、ね、おねがいするよ」
 吉田「力なく」「ハイ」
 黒木「よし、これできまった。ところでどうだね。すっかり初めから、書き直さねばならんが間に合うかな？」
 一同、顔を見合わせてもじもじしている。
 吉田「大丈夫です。明日からみんなのでやりませす。前よりもずっといいものを仕上げてみせますよ」
 A「そうだと。あんなことをしたやつへのみせしめにね」
 吉田「へこたれるもんか。百倍もすばらしいものを作ってやるよ」
 黒木「ほほえんで」「その意気、その意気、艱難、汝を玉にす……というからね。しっかりとむよ」
 そこへFがかけてくる。
 F「先生！」
 黒木「ハイ」
 F「金村君のお母さんが先生をさがしていらっしやいますよ」
 黒木「そうかね、どちら？」
 F「いまここへおいでになります」
 F、後をふり返る。
 F「おばさん、こちらですよ」
 金村の母がいそいそとやってくる。
 母「いつも誠治がお世話さまで……」
 黒木「どういたしまして……今度の学芸会では誠治君も大役で……」

母「ハイ、実はそのことで、おわびに参りましたのでございます」
 黒木「と申しますと？」
 母「何ですか、さっき、学校から帰ってきましたと、急に熱を出しまして……」
 黒木「それはいけませんな。実はけさ誠治君の



顔色
 があまりよくなかったので、さては疲れが出たのでなければいいかと、心配していたわけですが……」
 母「かせ気味らしいのです。あの子も大役を引受けておられますので、どうしても明日は仕上げのけいこがあるから学校にゆくといいってきかないのをやっとなだめて休ませることにし

たのでございます。こんどの学芸会ではみなさんが一生懸命になっていらっしやるのをかねがね話にきいておりましたので、ほんとに申訳ないとは思いましたが……」
 黒木「いえいえ、そんなことはありません。後にはなんとかいたしますから、どうぞ御心配なく……」
 母「ハイ、本人もかわいいそうな位、しよけております」
 黒木「一生懸命でしたからね。しかし、体が大切ですよ。どうぞ、無理をしないように」
 母「ハイ」
 黒木「経過がおよろしかったら、どうぞ誠治君とおそろいで見にいらしてください」
 母「ありがとうございます。ではこれで失礼します」
 黒木「くれぐれもお大事に」
 母「ハイ、みなさんによろしく」
 黒木「承知しました」
 母、去る。
 一同、シーンとしている。
 A「困ったな」
 吉田「さっき学校から帰る時は元気だったんだけどなア」
 黒木「主役が病気では大変だな。背景は書き直さなくっちゃならんし、こりゃとんださいなんつづきだね」
 吉田「ぼくの方は大丈夫間にあわせませんが、金村君の代役が今からで間にあいますか？」



黒木「そうさね、どうも心配だが」

A「がっかりするよ」

B「ほんとに」

C「気ぬけがしたなァ」

一問一

黒木「いい考えがある、木村君、すまないけど、千田君をよんできてくれ」

吉田「千田君をですか？」

黒木「そうさ」

吉田「金村君が王子さまの役になることを一番反対した千田君をですか？」

黒木「そうだよ」

吉田「しかも、ぼくたちの仕事をめっちゃめっちゃにした張本人をどうしようというんですか？まさか、金村君の代わりに王子さまの役をやらせるお考えじゃありませんか？」

黒木「そうだとしたら？」

吉田「ぼくァいやです」

黒木「どうして？」

吉田「どうしてって……憎い犯人です」

黒木「もちろん千田君がやったことはよくない。しかしそれもよく考えてみれば、王子さまの役がやりたくて仕方がなかったのだが、それがやれなかった腹いせにすぎないのさ。なにも心の底から君たちのじゃまをしやうとしたわけではないんだよ。千田君に代役をつとめてもらったらどうだろう」

吉田「……」

黒木「先生は決して千田君の代役を君たちにおしつける考えはないんだから、誤解しないでくれ給えね」

一同、考えこむ。

吉田（キッと面をあげて）「先生ッ！」

黒木「ウム？」

吉田「やっぱり千田君が一番いいと思います」

A「ぼくもそう思います」

B「賛成」

黒木「先生がいい出したからじゃないか？」

吉田「違います。みんながここまで仕上げてきた努力をりっぱに実を結ばせることの方が大切なのです。僕はやっとそのことに気がつきました」

黒木（感動して）「よく分ってくれた。ありがとう。これが世の中にとってなによりも美しい仕事だものね」

一同「ハイ」

黒木「じゃあ、ぼくから千田君にたのんでもいいね」

一同「ハイ」

吉田「木村君、千田君に先生が呼んでいらっしやるからといってこいよ」

C「よしきた」

C、走り去る。

黒木、その後姿をニコニコほほえみながら見送っている。





スイスの連盟本部から

連盟発行の新しい印紙——スイスの連盟本部では、各国赤十字社がその会費や寄付の受取りに張る印紙として、世界中おそろいのものを使うことは、各国の会員にじぶんが一国の団休ばかりではなく、世界を一つにつなぐ国際的な一大団休の一員になった感じを興える効果があると考えて、図案した最初のもは、この案の提案者でメキシコ赤十字の連盟代表、ジェイド・ルーダ氏の作でした。これは十三箇国の赤十字社に使われて、たいへんよい成績をあげましたが、戦災にあった町の図案なので、一九五〇年の印紙としては、何か赤十字の平和事業を現わした図案のものととりかえたいということになりました。しかもそれは、各国の青少年赤十字団員から募集すること。そしてそれにはすばらしい御褒美がついているのでした。一等地になった学生はどこでもいきいたい国の赤十字社の見学にいけるといふのです。

それは一九四九年の春のことで、私たちが支部から皆さんによびかけましたが、一つもよいのが集まりませんでした。連盟に期日までに送ってきた国はたった八箇国で、オーストリア、ベルギー、フランス、英国、ギリシャ、パキスタン、ポトランド、トルコの諸国だったそうです。

審査委員の方々は、メキシコJRC代表のルーダ氏、イタリア赤十字代表のカロッツ教授、

フランス赤十字宣伝課長のエドワール・ワッテリン氏、連盟の報道出版局長フレッド・シガリスト氏、連盟JRC局長のゲップ嬢と同局長のシュゼーレ氏でした。

みんなでしんちゅうに審査した結果、満場一致で一等に決めたのは、ギリシャのJRC団員の力作で、この作者は十七才になるニコラス・ギョボジスというアテナの高校生です。この人こそ、約束どおり、外国のJRC見学のごほうびがいただける通知をうけたのでした。

みなさんから、絵や工作やアルバムを——連盟のJRC局では、今、世界のJRCの室を用意しているので、各国のJRC団員の作品をとってもほしがっています。

- 一、学校通信アルバム。
- 二、JRC団員の作品。
- 三、JRC団活動の写真。なるべくなら全紙大の大きさのもので、ちょっととした説明をつけたもの。
- 四、何かあなたの国の人情、風俗、工業、等がわかるような写真やポスター。

がほしいといってきました。

どうか新しく生れかわった文化日本の青少年の意気をしめして、いいものを送ってください。学校はありませんか？ 本社がおとりつぎします。

フィリッピンのJRC団員は、麦わらや竹細工の大きささまざま、ありとあらゆる形をしたかごや、帽子や、色あざやかな扇子、きれいに

来たおもち、などを一ぱい送ったそうで、連盟の人びとは、どんな大人の職人でもこの材料を使っては、フィリップの子供ほどじょうずには出来まいと感心しています。

ユネスコを通じて、レディ・バタフィールドから

児童国際親善旗の図案けんしょう募集——英国の貴族、レディ・ヒルダ・バタフィールドというおばあさまは、今年六十六のお年で世界中をまわっていらっしやいます。それは、世界中の子供がなかよしになって、もう二度とあのいやな戦争がおこらないようにと、それを見ては決心するための旗をけんしょう募集しようという考えからです。バタフィールドさんのお話では、もう三十の国の人びとがこの考えにさんせいしているそうです。

日本でも皇后陛下と九十分もお目にかかってお話申上げたところ、大さんせいをなさって、けんしょうにはトロフィーがよかろうとおっしゃったというおられました。高瀬文部大臣も全国の公立学校に通知を出されたそうですが、各縣別に審査したものを最後には東京に集めて、みんなの投票の結果一等よい作品をユネスコに送り、そこで世界中からの応募作品とくらべるのだそうです。最後に世界一と決った図案は、世界中の子供によって、どこの国でもどこの団体でも「世界仲よしの旗」としてかかげられることになるのです。そのほか、切手の図案

にもされて、世界中で使われます。

応募できるのは、十五才以下の学童に限る。寸法は、十八インチに二十四インチ。

色数は、余り多すぎないこと。

期日は、大体三月一ぱい。

くわしいことは、ユネスコの西村伊作氏に一任されているそうです。

フィリップから

どうぞアルバムを送ってください——フィリップのJRC団員は、学校通信アルバムの交換が大好きで、もともと諸外国からアルバムをいただきたくてたまりません。どうぞどしどし送ってください。私たちもたくさんつくっていますから……。

風俗人形の交換——もう一つのお願いは、どこのお国のJRC団員のかたか、私どもと、風俗人形の交換をしてくださる学校はありませんか？

オーストラリアから

オーストラリアのJRCから、三冊のいい本が出ました。

「救急法」——ごく最近発行のこの「救急法」の手引は、基礎的救急法の話で、九十六頁あり、さし絵も線がきや色ずりで味があり、十二章にわかれてあるみだしで、だいいなポイントがおぼえやすいようにできています。

「図書館のやりかた」——ジョイス・ニコルソンの書いたこの本は、すばらしい小冊子です。

図書館の経営なんておもしろい仕事をする

にした連中には、どんなに役にたつかわかりません。実に完全で、はつきりしていると同時に要点をえています。はじめて図書館をしてみようという人に起りそうな、ありとあらゆる問題が、図解入りでといてあるので、どんな子供にもわかるようになっていきます。約十五頁をつかって本の名前をのせてありますが、読者の年令で、それぞれ向く本が区別できています。

「青少年向人形芝居」——三十頁を越さない小冊子ですが、おもしろくもありまた実際の役にもたちます。古代のエジプトから私たちの今日までのかんたんな人形芝居の歴史もあれば、いろいろなタイプのちがった人形について短い説明もあれば、一番かんたんなタイプの二つの人形芝居、つまり指人形と、かけ絵芝居がじぶんで出来るように、制やえらび方や、ごまごました注意もあります。また、小屋、道具だて、光線、演出にいたるまで、ごまごまとあつかわれていきます。色を二色使ったさし絵も、説明を一層はつきりさせています。

アメリカから

音楽の交換——一九四八年の末に国際絵画計画をはじめたアメリカのJRCは、一九四九年の末には、また、国際音楽計画を発表しました。各学校の音楽部員がふきこんだ十二インチの両面六枚のレコード一組が、手組も出来上って、船出を待っているそうです。

皆さんは朝ラジオの名曲の時間に、大音楽家バッハの演奏家である有名なシュヴァイツァーの名前と、彼の演奏する気高いパイプオルガンの音に耳を澄まされたことがあるでしょう。シュヴァイツァーはパイプオルガンの演奏家であり、また研究家でもあるばかりでなく、神学、哲学、医学の博士号をもっている世界的な学者であります。いま「現代世界最大の偉人」などと讃えられているこのシュヴァイツァーのほんとうの仕事は、学問や芸術の上で人類のために働くことばかりでなく、むしろ赤道直下アフリカの熱地で、土人を救うための病院をつくり、そこで七四才の老年をものともせず、みずから献身的



Albert Schweitzer

人間を愛した人々

アフリカの聖者

アルバート・シュヴァイツァー

な努力をつづけていることにあります。シュヴァイツァーの廣くしみ通る愛情ぶかい心は貧しい文化に溶さない人たちばかりでなく、野山の動物たちにまで及んでおります。この溢れるような愛の光をかがやかく、照らし出しているシュヴァイツァーは、一たいどんな生い立ちをもった青少年だったのでしょうか？

シュヴァイツァーは今から七四年前、一八七五年にドイツのエルザス地方のプロテスタントの牧師の二男として生まれました。まだ学校へ通いはじめの前から、彼は即興的に美しい曲を弾いたり、唱歌や讃美歌をじぶんで考えだした伴奏で弾けたりしました。七才のときには自作

の和声をつけた聖歌を、オルガンで演奏して、女の先生をおどろかしたりしました。八才のときには、足がまだベタルにつかないほどだったのに、パイプオルガンを習いはじめ、九才のときには教会で礼拝のときに、演奏することさえ許されたほど上達いたしました。

シュヴァイツァーがまだ学校へ上らない幼い時のことですが、夕べのお祈りのさいに、人間だけを祈るのが不思議でなりません。彼はこうお祈りしないではおれませんでした。「おお、天にまします私たちの父よ、生けるものすべてを守らせ給い、祝福をくだされますように。それらすべてを、あらゆるわざわいから

須和俊一

護らしてください。安らかにねむらしてください。

何というやさしい魂だったでしょう。

シュヴァイツァーは恵まれた平和な日々がつづいて幼年時代をおくり、十八才のときには、故郷のエルザスに近いシュトラズブルグの大学に入り、神学と哲学を学んだのでした。

彼の若い感じやすい心は、まわりの人たちが多くの悩みと苦しみと戦っているのに、じぶんだけが幸福な生活を送ることが許されるだろうか、と。大学時代も、彼が研究によって科学と芸術に、貢献できるわが身の幸福を思いながら、貧しく身体の弱い不幸な人たちのことを、思わずにはいられなかったのです。二十一才の光のかがやかしいある夏の朝、彼は一生の決心をしました。——何かじぶんからも他人に対して興えるところがなくてはならぬ。じぶんは三十才になるまでは学問と芸術のために生きるように許された、と考えよう。そうして、それから後は直接に人間への奉仕に一身をささげよう、と。

大学を卒業した後、彼は一方においては牧師、神学者、哲学者、大学教授として、他方は音楽家及び音楽研究者として三十才までに、普通の人間が、ゆうに一生かかって、しとげる以上の学問芸術上の大きな仕事をしました。それは輝かしい業績として、永く学問の歴史に刻みこまれるような大きな影響をあたえたのでした。

三十才になってから、彼は一方で大学の神学

の教授でありながら、医学部の一学生として講義に出はじめました。彼の考えた「直接に人間に奉仕」する方法は、ほかならぬアフリカ赤道地方に苦しめる土人たちのために、医者として、みずから出向くことなのでありました。この決心に対して友人たち親戚たちはみなこぞって反対しました。がすでに一家の名声をえ、天賦と知識によって人を導くことのできる者が、今さらアフリカに赴くなどということは、殆んど気狂い沙汰のように思われたのです。彼が医者になる決心をした理由は、愛のお喋りをしないで実際の行動によって、人々に奉仕することができからなのでした。

医学の勉強がはじまりました。一方神学の教授としての講義もあり、又日曜日毎の教会の説教もあります。この数年間のシュヴァイツァーの努力は、人間なみではありませんでした。この医学研究の間に、彼は「パイプオルガンの研究」と「イエス伝研究史」の大作をもついにま

とめ上げる驚くべき努力をしました。これらの書物の印税からあがる収益は、のちにシュヴァイツァーがアフリカで病院経営のための資金の一部となったのでした。

三十六才のときには医学の国家試験に合格して、ストラズブルグ大学教授の仕事とオルガンと文筆をすてて、炎熱やくような赤道直下アフリカのランパレネに赴きました。

一九一三年より彼のアフリカでの事業ははじまりました。到着の最初の日から、彼は土人の

病人たちにかこまれ、その病人たちは、周囲の二百軒或いは三百軒の遠い地方から、川伝いにわざわざやってきたのでした。最初の数週間のうちに彼は、土人たちの肉体的な悲惨は、予想していたものよりもすくないどころか、はるか大きなものだったことに気付きました。

そののちも数多い悩み悲しみ苦しみにめげず、彼の仕事は着実に実を結んでゆきました。だんだんとヨーロッパにおいても、アフリカにおいても彼に理解をもつ人々が増して来て、ついに彼は彼が諦めていたパッサン演奏も、パリのパッサン協会から熱帯地向けに特製されたピアノを贈られて、技術の習得にも事欠かないような事情になりました。また一方ヨーロッパの各大学で講義をすることもできるようになり、経済的にもパイプオルガンと文筆によって十分に独立を保つことができるようになりました。

シュヴァイツァーはことし七十四才の高齢にもなお健在でアフリカで活躍しています。先頃ゲーテ祭にアメリカのコロラドにまいりました。その時、去年の冬西部高原の大嵐のうちに雪に鎖されてしまった動物たちに、食物を與えるため飛行機が動員されたという話を人から聞いてシュヴァイツァーは老いた眼に涙をたたえながら「おお！ 何というかわいそな動物たち！ 然し、近代科学による愛の奉仕の何とすばらしいこと」と、さげんだという事です。動物たちを愛する彼のやさしい心が偲ばれて、心がぬくもる思いがいたします。

倉市の小倉一中、柳川町の柳城中学などいすれもりっぱな団ばかりですからその中に各地にも設団されるでしょう、三団の皆さん頑張ってください。

静岡

十二月十二日浜松市西部中学青少年赤十字団では、市内及び近接郡部の先生方と生徒会の代表を招いて発表会を開きました。授業参観や、団員の発表、音楽などを聴いているいと勉強をしたほか、団員とまだ加盟していない学校の生徒さんたちとの意見の交換などほんとうに有益な集まりでした。

富山

富山市総曲輪小学校の団員は、市内の愛育園、ヘクリスマスツリーやお人形、汽車、羽子板、双六などじぶんたちの手で作った贈物に、団員が夏休み中に硝子屏などを買って作ったお金をそえて「みんな仲良く、お正月を楽しく遊んでください」と、委員七名が十六名の恵まれない子たちにプレゼントをした。よろこぶ子供たちと一日を過し「ああ、よいことをした」と喜びにみちて家路についた。

兵庫

神戸市生田中学団員はクリスマスに眞生塾の不幸な子供たちに、プレゼント、劇などで慰問をした。

石川

石川郡藏山村立中学では十二月二十四日校長先生の手許にこんな手紙がまいこんで、びっく

りさせた。

「去る十月末、かり穂を田一面にほしていたところ、にわか雨もよりにこまっていたと、奉仕！奉仕とさけびながら、手だすけをしてくださったので、五分あまりで、しもう事が出来、供出にまにあいました。みんな生徒さんのおかげです」と。

群馬

新田郡太田市山田郡方面にはJRCが一つもないのは残念と、鳥之郷中学団員は未加入校生徒に宛て、手紙を書いて、三十五校のお友だちによびかけた。

新潟

市内団員協議会では団員の諸作品を展覧し、団員相互の親善をはかろうと、昨年十二月二十二日までに支部に作品が集まるよう各団によびかけ、その成果を期待している。

市内関屋小学校では引揚者寮、救護院へ団員自作の手芸品、飾小箱など持参してそれぞれ十二月十七、八日に慰問した。

市内の団議長、副議長が集まって、JRCを振興するために、団員協議会を昨年九月二十四日開催したのはじめとし、十月十五日、十一月十二日と次々とひらいている。

東京

JRC東京支部大会が十二月二十六日午後一

時から共立講堂で、団員たちが始めから終りまでじぶん自身でたてたプランによって開かれた。当日は約五千人の団員は講堂にあふれるばかりで、コーラス、洋舞、劇（私たちの銀座・アンリデーナン）合唱と団員の熱演がくりひろげられた。

十二月二十五日のクリスマスには東京支部各団から集まった約五百名の団員が劇、歌二十の扉、音楽にと楽しいつどいをした。同時に協議会委員は例会をひらいた。当日茨城支部から東京団員の活動を視察に来た三十余名の団員は、協議会、クリスマス会、若葉寮慰問に参加をした。茨城の団員たちの感想は……

●石岡中学・橋本智子さんは――

「音楽コンクールを楽しく見せていただきました。東京の皆さんがとても積極的に活動していただけるので驚きました。私たちもこれから、しっかりやって行きたいと思っています」

●水戸市第二中学、井上恵美子さんは――

「東京の皆さんが、とても親しみ深いので、楽しく時を過すことが出来ました。私たちも、もっともっとやります」

●吉田中学、江原正枝さんは――

「これを機会にお互いに手を取り合って行きたいと思えます」

●水戸市第二中学、黒田美明君は――

「たとえ未熟でも、積極的にこのような会を開く事は良いことだと思います。茨城では各校が非常に離れているので、なかなかこのような会

が開けないので残念です。でもがんばってやります」

鳥取

JRC振興協議会を縣下八箇所で開催、のべ三二四〇名の団員がこれに参加している。

また縣下の二十団の代表が集まって協議会をひらこうと、十月十五、六日の二日間、米子市鉄道局米子厚生寮に参集した。

長野

縣下のJRC運動はいまや各町村に大いに興ってきた。長野市の吉田町東部中学では、昨年二月の入団以来、リンゴの袋はり(一万数千四百円)や火の用心の実施、団員理はつ屋など、各方面に成果をあげている。

山口

岩国市平田小学校では、昨年四月、市保健所、市役所衛生課の應援を得、全団員・部落民の検便を行った。その結果、蛔虫卵保有者は団員が八六%、一般部落民が七三%で、早速駆虫剤服用をすすめた。九月三日に第二回、九月十七日に第三回と絶滅をはかっている。その他蚊、はえの発生する場所に薬品を撒布して、発生をふせぎ、五月末ごろは蚊、はえが激少して、市民からよろこばれている。

大分

大分縣立ろう学校では、混乱した社会に、ろう児の社会性を培い、新教育の目的をどう達成するかというので、研究の結果、JRCの結成を

試みた。

JRCの精神を子どもたちの自治活動のよりどころとし、中高の生徒たちと話しあひの結果、昨年六月二日に登録式をあげ、環境の整備を大部分の仕事とし、国内通信、慰問と各方面に活動をしている。

奈良

生駒郡北後第三小学校では、一昨年秋より三年以上の団員が、同校区内の新聞配達を行っている。

神奈川

横浜市立青木小学校の団員は、去月五日の全国大会のとき全国団員の作って持ちよった郷土のお人形や工作など四百点のうちの一部や、自分たちがお料理の時間に作ったドーナツ八十箇をおみやげにして、横浜市安母子寮の七十六名の気の毒な児童を慰問し、子供たちと一日、歌を唄ったり、お遊戯をして、楽しく過した。

大阪

十一月一日から二週間、大阪松阪屋四階の催物会場で、児童展覧会が開催されている。日赤大阪支部では青少年赤十字団の一室を設けることになり、赤十字小旗が数十枚十文字に高く飾られた一室に、正面には地球儀を取巻く各国々旗と下に描かれた各加盟国の青少年の喜びの顔に、世界親善の形を表わし、両壁面に青少年赤十字団の目的、入団後の活動分野、事業概要などが美しい絵画と簡潔な文字で展示された。

(二八頁より)
以上の困難をとまなうことは確かですが、その困難が個人の人格をとうやし、JRCに対するより深い勉強と、愛着、情熱を起させます。そしてその困難があなたが一人がせおうのではなく、心を同じくする同志の間でわけられる時、その同志愛は最も強い友情を生み、生涯の宝ともなりましよう。

こういう風に考える時、困難はあるけれども、原則どおりクラス単位で入団する事の意味は十分あるわけです。おわかりになって、「積極的に入ったらいけないのか」といってこれる方は、みんな熱心な方ばかりです。その方たちをむざむざと、ほっとくなんて、もったいないのです。その熱心な方たちを集めて一クラスぐらいの人数にして、一分、結成したらいいないでしようか。そうしたら種々な事もどんどん積極的に出来るのではないでしようか……以下略」と、おっしゃるあなたの火をばく熱意に、私も胸が迫ります。

でもね、〇〇さん、私たちの仕事はどれをどれだけしたという仕事の結果以上に、努力の過程が買われねばなりません。どうぞ同志が心をあわせ、助け合い、知恵をしぼって、困難と戦ってください。その結果がどうあるかと、天知る、地知る、人知るではありませんか。

〇〇さん、納得がいかなかったら、何度でも聞いてください。また、どんな質問でもしてくださいます。御一しよに考えましよう。

昭和二十五年二月廿五日印刷 第八号
昭和二十五年三月一日發行 非売品
編集者 日本赤十字社青少年赤十字部
印刷人 本庄 俊
東京都品川区東品川一ノ三
東京都品川区東品川一ノ三
東京都品川区東品川一ノ三
東京都品川区東品川一ノ三
日本赤十字社

775 013



ギフト・ボックスをいだきしめるお女たち

(東京・貧民の窟)

775 013

